

日本の小さな町でも積極的に地球温暖化防止活動の話をします。ちょうど、一年前、日本の新エネルギー事情についてアメリカの環境雑誌の取材のために日本へ行くことになりました。新エネルギーと言うのは風力発電や太陽電池や水力発電など様々な設備で地球温暖化の対策の一つとなっております。

半年前の地球温暖化についての調査によると日本人は93%、ナイジェリア人は78%は関心を持っていますが、しかしアメリカ人は52%しか感心を持っていません。

ところで、取材するまめに日本のどこへ行って新エネルギーの活動を見ればいいのかと何人かに聞きました。デンバーにいる山形県庁の方々にも、日本の大学の教授に聞いても、みなが同じ答えでした。それは岩手県にある葛巻町に行くべきだと言われました。この一つの小さな町で複数の新エネルギーの設備が見らると言われました。

インターネットで調べたら、葛巻は不便な所で、盛岡市からバスで2時間です。人口8千人の町でした。でもなぜこのような小さな町に最新の設備があるかと好奇心が沸いてきました。その理由がわかれば、面白い記事になるのではないかと思いました。よし、行くことに決めました。

一ヶ月後、町役場の環境エネルギーの担当の下天馬さんと会って、一日中最新の設備を見学し、感心しました。でも、もっと大切なことは、その夜、多くの人たちと取材のためのパーティを開いていただきました。お酒を飲んだり、歌を歌ったりしながら、皆さんの意見を聞きました。なぜこんなに小さな町がこのような素晴らしい最新の設備があるかと大分わかってきました。どういう人に聞いても一町にずっと住んでいたご老人でも、若者でも、30年前都会に出て最近帰ってきた人でも、皆さんが同じことを考えていました。それは、地球温暖化の意識を待って少しでも葛巻というところを独自に自分の環境にも地球環境にも貢献が出来るじゃないかという返事でした。

私は非常に感激し、もしアメリカが葛巻と同じ程度、地球温暖化の感心を持ったらその問題を解決するのではないかと強く感じました。

ご清聴ありがとうございました。